

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 2 月 23 日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 4070801867 | | |
| 法人名 | 有限会社 あざみ | | |
| 事業所名 | グループホーム あざみ苑 | | |
| 所在地 | 福岡市東区若宮4丁目2-48 〒813-0036 (電話) 092-400-2382 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 福岡市中央区荒戸3-3-39 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年2月22日 | 評価確定日 | 平成22年3月29日 |

【情報提供票より】(平成 22 年 2 月 7 日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------------|--------|------|
| 開設年月日 | 昭和 平成 17 年 7 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 18 人 | 常勤 | 18 人 |
| | | 非常勤 | 0 人 |
| | | 常勤換算 | 12 人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|------------------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り |
| | 3 階建ての ~ 1~2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|----------------|----------|------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 50,000 円 | その他の経費(月額) | 20,000 円 | |
| 敷金 | 有 (円) | 無 | | |
| 保証金の有無(一時金を含む) | 有 (円) | 有の場合償却の有無 | 有 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 350 円 | 昼食 | 450 円 |
| | 夕食 | 550 円 | おやつ | 150 円 |
| | または1日あたり | 1,500 円程度 | | |

(4) 利用者の概要(2 月 7 日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|-------|------|----|------|
| 登録人数 | 18 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 15 名 |
| 要介護 1 | 5 名 | 要介護 2 | 6 名 | | |
| 要介護 3 | 3 名 | 要介護 4 | 3 名 | | |
| 要介護 5 | 1 名 | | | | |
| 要支援 1 | 0 名 | 要支援 2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 80.6 歳 | 最低 | 61 歳 | 最高 | 93 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------------|
| 協力医療機関名 | 宮崎内科クリニック、福岡輝栄会病院、敬愛歯科クリニック |
|---------|-----------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームのすぐ近くには、スーパーや地域商店街、病院、郵便局があり、生活の利便性に優れた場所に位置している。「自分の親もここで看たい、そう思える介護」を総合理念とし、「社会的な生活を続けていく」等の具体的な理念を職員全体で共有し、ケアに活かしている。センター方式を活用して利用者一人ひとりのできることを引き出し、毎年、地域の子供会との合同クリスマス会や利用者の地域行事への参加、近隣のスーパーや喫茶店、理美容院の利用等、利用者が地域の中で楽しみを持ちながら過ごしている。全職員の熱意を持った取組みで、近隣の保育園の慰問や民生委員からの要請による地域の公民館での認知症サポーター養成講座を実現させ、講座には、民生委員や地域住民、ホーム協力医、行政の担当職員等が多数参加した。今後、更に地域との交流を深め、地域になくはならない拠点に成長していくことが期待されるホームである。

【重点項目への取組状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について、運営推進会議時に報告を行い、職員はミーティング時に改善についての協議を行う等、質の向上への取組みがある。この過程で、センター方式を活用し、利用者の思い等を詳細に把握する等、全職員が質の向上に向けて積極的に取り組む成果が見られる。 |
| | 今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、職員全体で評価項目の内容を検討し、日々の業務の気づきや職員全体の意識向上に繋げるなどの取組みがある。 |
| 重点項目 | 運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 町内会長、民生委員、子供会会長、地域包括支援センター職員、地域運営推進員、地域商店街の方、家族等の参加のもとに2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。運営推進会議では、地域包括支援センター職員から成年後見制度の説明を受けたり、玄関付近へのブラントーの設置についてのアドバイスをもらう等、会議を活かした取組みがある。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の面会時や運営推進会議、年2回の家族会等を通じて、日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。毎月、利用者の写真を掲載したホーム便りや個別に担当職員による手紙等を送付し、ホームでの状況や行事等を報告している。意見や苦情については、ミーティングの議事録などにて全職員が内容を把握し、内容に応じてその場での回答や、ミーティングにて検討し、対応するなどの取組みがある。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者が地域の夏祭りや運動会、どんと焼き等の行事に参加したり、近隣の喫茶店や理美容室、地域の商店街やスーパーを利用する等、地域交流が積極的に行われている。毎年、地域の子供会との合同クリスマス会を開催し、近隣の保育園の慰問や小学生の歌・楽器演奏、中学校の職場体験の受け入れ等、ホームが地域に溶け込む取組みがみられる。 |

2. 調査報告(詳細)

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------|----------|--|--|-------------------------|-----------------------------------|
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている | 「自分の親もここで看たい、そう思える介護」の総合 理念とともに、「社会的な生活を続けていく」等の具体 的な理念を掲げ、地域と利用者とのかわりを重視し ながらケアを行っている。地域の子ども会との合同クリ スマス会の開催や、近隣の保育園の慰問、地域の運 動会やどんと焼き等の行事への参加等、地域交流が 積極的に行われている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる | 玄関やリビングなどに理念が掲示されており、自然 に目に入る工夫がある。毎月のケアカンファレンスに て理念を確認したり、理念に基づいたケアについて 日々の業務を通じて協議するなど、理念の実践に向 けた取り組みがある。管理者は、職員の思いや意見を 尊重し、職員が生き生きと働ける環境づくりに取り組 んでいる。 | | |
| 2 地域との支え合い | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている | 利用者が地域の夏祭りや運動会、どんと焼き等の 行事に参加したり、近隣の喫茶店や理美容室、地域 の商店街やスーパーを利用する等、地域交流が積極 的に行われている。毎年、地域の子供会との合同クリ スマス会を開催し、近隣の保育園の慰問や小学生の 歌・楽器演奏、中学校の職場体験の受け入れ等、 ホームが地域に溶け込む取り組みがみられる。 | | |
| 3 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組ん でいる | 前回の評価結果について、運営推進会議時に報告 を行い、職員はミーティング時に改善についての協議を 行う等、質の向上への取り組みがある。この過程で、セ ンター方式を活用し、利用者の思い等を詳細に把握 する等、全職員が質の向上に向けて積極的に取り組 む成果が見られる。今回の受審にあたり、全職員にて 自己評価を行い、検討する等の取り組みがある。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|----------|--|---|-------------------------|-----------------------------------|
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 町内会長、民生委員、子供会会長、地域包括支援センター職員、地域運営推進員、地域商店街の方、家族等の参加のもとに2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。会議では、地域包括支援センター職員から成年後見制度の説明を受けたり、玄関付近へのプランター設置についてのアドバイスをもらう等、会議を活かした取り組みがある。 | | |
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加や行政のケースワーカーとの相談等を通じて、行政との連携を図る取り組みがある。また、運営上の疑問点についてその都度相談を行う等、行政との連携を図る取り組みがある。民生委員からの要請で地域の公民館で認知症サポーター養成講座を開催し、21名の民生委員や行政職員が参加した。 | | |
| 7 追加 | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 制度に関する研修等に参加し、職員全体で制度について学ぶ取り組みがある。運営推進会議時に地域包括支援センター職員から成年後見制度の説明を受けたり、家族へ成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要や利用方法等について具体例を挙げながら説明する等、活用に向けた支援が行われている。 | | |
| 4 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 (7) | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の面会時や運営推進会議、年2回の家族会等を通じて、日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。毎月、利用者の写真を掲載したホーム便りや個別に担当職員による手紙等を送付し、ホームでの状況や行事等を報告している。毎月、ホーム協力医からの居宅療養管理指導書や現在服用中の内服薬についても報告する取り組みがある。 | | |
| 9 (8) | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や運営推進会議、年2回の家族会等に職員と家族とのかかわりを通じて、意見や苦情を表出しやすい雰囲気づくりへの取り組みがある。意見や苦情については、ミーティングの議事録などにて全職員が内容を把握し、内容に応じてその場での回答や、ミーティングにて検討し、対応するなどの取り組みがある。 | | |
| 10 (9) | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | ホーム行事の開催はユニット合同で行い、全職員が相互に顔なじみの関係をつくっている。入職時は、1ヶ月間程度引き継ぎ期間を設け、管理者や馴染みの職員が見守りながら指導にあたる等、利用者へのダメージを防ぐ取り組みがある。管理者は、常に職員の状況を把握し、傾聴の姿勢で話を聴く等、職員が生き生きと業務に専念できるような配慮がある。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------|------------|--|---|-------------------------|-----------------------------------|
| 5 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 追加 | 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 採用時には年齢・性別などの制限はなく、やる気や適性等を重視しての採用である。介護計画書の作成や調理は、担当職員が行い、ホーム便りの作成は輪番制で行うなど、日々の業務や行事、イベントの開催等、職員の個性を尊重し、得意な職員が不得意な職員にアドバイスし、職員全体で共に補い合いながら、特技や得意分野での能力を発揮できる体制がある。資格取得を目指す職員に対して、勤務調整や金銭的な支援を行うなどの援助体制がある。 | | |
| 12 | 20 追加 | 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 校区で行われる人権学習に職員が参加し、ミーティングにて受講報告会を行い、職員全体で人権について理解を深める取組みがある。日々のケアを通じて、人権の尊重について気づきがあれば、ミーティングにて検討したり、職員用のトイレに注意すべき言葉や行動を掲示し、職員全体で常に利用者への敬意の念を持ち、人権意識を喚起する取組みがある。 | | |
| 13 (10) | 21 (19) | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各種研修案内を提示して、可能な限り外部研修への参加の機会を確保している。職員の希望や管理者の割り振りにより、県のグループホーム協議会の全体研修やブロック研修に参加したり、認知症サポーター100万人キャラバンメイトの研修に8名程の職員が参加し、地域の公民館で認知症サポーター養成研修を行う等の取組みがある。 | | |
| 14 (11) | 22 (20) | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県のグループホーム協議会のブロック研修に管理者が参加し、県のグループホーム協議会の全体研修や認知症サポーター100万人キャラバンメイトの研修に職員が参加する等、他事業所への見学や情報交換等が図られ、質の向上に向けた取組みがある。今年、県のグループホーム協議会の研修で認知症サポーター養成研修の事例発表を行う予定である。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------------|--|---|-------------------------|-----------------------------------|
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 (12) | 28 (26) | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前の面談にて本人・家族への聞き取りやホーム見学を行い、医療機関の看護師やソーシャルワーカー等からの情報提供等を通じて、本人の様子を見ながら馴染みの関係を作っていく取り組みがある。入居後は、利用者が安心して過ごせるように環境づくりや声かけを工夫し、かかわりを多く持つ等、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。 | | |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 (13) | 29 (27) | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は常に利用者に寄り添い、料理の仕方や昔のしきたり、地域の風習など、人生の先輩として日常のかかわりの中で自然と学びあう関係をつくっている。常にあたたかい雰囲気を保ちながら、利用者間で励まし合ったり、利用者が職員にねぎらいの言葉や感謝の言葉をかけるなど、お互いを尊重し支えあう関係を築いている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 (14) | 35 (33) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時の面談や家族の面会時、家族会、運営推進会議時などに家族の思いや希望の把握に努めている。センター方式を活用し、家族から利用者の生活層等の情報を把握し、日常のかかわりの中で利用者の動作や表情等から思いや意向を詳細に汲み取り、担当者会議にて職員全体で協議・検討を行い、介護計画書へ反映させる等の取り組みがある。 | | |
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 (15) | 38 (36) | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 全職員の参加によるサービス担当者会議や必要時、ケアカンファレンスにかかりつけ医が参加し、本人・家族の意向及びケアの内容について話し合い、担当職員と計画作成担当者が介護計画書を作成する取り組みがある。日常のかかわりの中で、介護計画書の実践内容や気づきなどを詳細に介護記録に記録し、職員全体で情報を共有している。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|------------|--|---|-------------------------|-----------------------------------|
| 19 (16) | 39 (37) | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している | 利用者に関する情報交換や心身状況の変化につ いて申し送り時などに確認を行い、月に1度のケアカン ファレンスにて、全職員で利用者や家族の意向の確認、 ケアの手順・変更内容について検討が行われて いる。3ヶ月毎及び状態変化の際は、サービス担当者 会議を開催し、職員全体で介護計画書の内容を検討 し、見直しや再作成を行う等の取組みがある。 | | |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 20 (17) | 41 (39) | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている | 医療連携体制を活かした内科・歯科の協力医療機 関の週1回の往診や連携支援、入院先の地域連携室 や医療関係者との連携・情報提供、協力病院への受 診介助など、利用者の状況や家族の要望に応じて、 柔軟に対応している。地域の公民館で認知症サポー ト養成講座を開催したり、地域の商店街や近隣の喫 茶店への利用支援等を行っている。 | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 21 (18) | 45 (43) | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している | 契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利 用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援し ている。内科・歯科のホーム協力医との連携による週1 回の定期的及び緊急時の往診、利用者の状態に応じ た協力病院への受診の支援がある。かかりつけ医へ の受診については、家族対応が困難な場合は、ホー ムにて支援するなどの取組みがある。 | | |
| 22 (19) | 49 (47) | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している | 看取り介護の指針を提示して、契約時と重度化した 際の対応を説明し、利用者の意思をふまえた上で書 面にて家族等の同意を得ている。状態変化時やその 都度、意向を再確認し、本人・家族の意思を尊重しな がら家族・主治医・ホーム間で協議し、方針を共有して いく取組みがある。身寄りのない利用者の告別式を 行った事例があり、利用者も参列し一緒に見送った。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------------|--|--|-------------------------|-----------------------------------|
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1 その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 (20) | 52 (50) | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない | 日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけ、利用者の名前をニックネームなどと呼ばないこ とを徹底し、利用者への尊敬の念を常に持つ等、職 員の意識の向上を図る取り組みがある。利用者の表情 やタイミングを見計らったさりげない声かけや視線 を合わせて笑顔で傾聴する等、利用者の自尊心やプ ライバシーに配慮した対応が見受けられた。 | | |
| 24 (21) | 54 (52) | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している | ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの気持ちを尊重し、決して無理 強いせず、様子を見ながら声かけを行っている。利用 者の希望や状況に応じて、食事や入浴のタイミング、 食事のペース等、利用者一人ひとりのペースを尊重し 支援している。 | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 (22) | 56 (54) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している | 利用者の好みを反映させた献立や季節感を取り入 れた食事を提供し、見た目や食感など、食事を楽しむ 為の細やかな配慮がある。利用者が包丁で野菜の下 ごしらえを行ったり、食材の買物や配膳、盛り付け、 食器洗い等、利用者と職員が協力しながら食事を楽 しむ工夫がある。家庭的で和やかな雰囲気の中で食 事を楽しめるような取り組みがある。 | | |
| 26 (23) | 59 (57) | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している | 利用者の体調に配慮しながら、利用者の希望や状 況に応じて柔軟に対応している。入浴の回数や順番、 家族の希望によるシャンプーの使用等、個別の希望 に沿って支援している。時々、入浴剤を使用し、入浴 が楽しく心地良い時間となるよう工夫したり、お風呂 が苦手な方にも無理強いすることなく、声かけを工夫 する等、快く入浴できるように支援している。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------------|--|--|-------------------------|-----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 (24) | 61 (59) | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている | 女性利用者が食材の下ごしらえや盛り付け、食器 洗い、洗濯物たたみ等の家事全般を行い、男性利用 者が戸締りやカレンダーの日めくりを行う等、利用者 の習慣や持っている力を引き出し、柔軟な支援を行っ ている。利用者が地域行事に参加したり、貼り絵や計 算ドリルに取り組む等、利用者の楽しみや得意なこと への支援が行われている。 | | |
| 28 (25) | 63 (61) | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している | 日常の散歩や近隣の商店街、スーパーへの買物、 運動会・どんと焼き・夏祭り等の地域行事への参加、 ドームへの野球観戦、花見、ピクニック等、利用者の 状況に応じてできるだけ戸外に出かける支援が行わ れている。近隣の喫茶店や理美容室への外出支援な ど、利用者の希望に応じて積極的に支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 (26) | 68 (66) | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る | 日中は常に開錠されている。ホームは交通量の多 いバス通りに面しているため、職員は利用者の様子 をきめ細かく観察・見守っており、さりげなく声をかけ たり、職員が見守りながら一緒について行くなど、利 用者の自由な暮らしを支える対応と安全面への配慮 がある。 | | |
| 30 (27) | 73 (71) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている | 年に2回、消防署の立会いによる避難訓練を実施 し、避難経路の確認や消火器の使い方等の指導が行 われている。地域の協力体制については、運営推進 会議や近隣住民との日々の付き合い、散歩時の挨拶 等を通じて、近隣のスーパーに協力の要請が行われ ている。避難訓練時に近隣住民に参加の呼びかけを 行い、家族が参加する取組みがある。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 (28) | 79 (77) | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をしてい る | 利用者の栄養バランスや栄養価を考慮した食事を 提供している。利用者の状況に応じて刻み食やとろみ 食、ミキサー食を提供するなどの取組みがある。毎 回、食事量を把握・記録し、水分は1日1700ccを目 途に、摂取量が少ない利用者へは、頻繁な声かけを行 い、水分チェックを行う等、栄養摂取や水分確保への 支援がある。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------------|--|---|-------------------------|-----------------------------------|
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 (29) | 83 (81) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関口に近隣小学校からの手作り作品が飾られ、 玄関の入り口やリビングの至る所に季節感を感じる飾 りつけや行事のスナップ写真が貼られるなど、家庭的な 雰囲気を醸し出している。リビング内は、広く開放的で あり、ソファでゆっくりとくつろいでいる利用者の姿が 見受けられ、落ち着いた雰囲気の中で居心地良く過 ごしている様子が見受けられた。 | | |
| 33 (30) | 85 (83) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている | 居室には、ベッドや布団、家具、仏壇、テレビ、家族 の写真、ぬいぐるみ、ポスター、観葉植物など、馴染 みの物や使い慣れた物が持ち込まれており、利用者 にとって安心して居心地よく過ごせる居室づくりへの 工夫や配慮がある。利用者自身による清掃等、一人 ひとりの能力やできることを引き出しながら居心地良 く過ごすための工夫がみられる。 | | |

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号